

福祉 わかやま

この広報誌の発行に
一部共同募金配分金
を利用しています。

特集
2・3

子どもたちの“いま”と“これから”をみんなで考える
〈令和4年度和歌山県地域福祉推進フォーラム〉



- 4・苦情解決のツボ
- 5・社協が行う相談支援
・第3回福祉・介護・保育の就職フェアわかやま開催のご案内、
福祉サービス経営相談開催のご案内
- 6・地域福祉活動紹介 NPOクリーン&コネクト和歌山
・赤い羽根共同募金

- 7・情報案内コーナー
- 8・ふくトレジャー
・精米の寄贈に感謝
～県社協会長感謝状贈呈式～

県社協SNS



お知らせ

「福祉わかやま」の次回の発行は、
4月号(4月1日発行)の予定です。

令和4年12月23日、和歌山ビッグ愛において、令和4年度和歌山県地域福祉推進フォーラムを開催しました。

和歌山県内の様々な地域福祉活動実践者が、現在の社会情勢を踏まえて子どもたちが抱える生活課題にどのように向き合い、どのような想いで活動に取り組んでいるのか。その活動を紐解きながら、全ての子ども、若者が輝いて生活するために必要なことを考える機会となりました。



オープニング

ふくしフォトコンテスト2022 入賞作品披露・表彰式



左から 県社会福祉法人経営者協議会^{もりた}森田会長、
 最優秀賞^{いずみ} 泉さや香様、優秀賞^{おかむらみさお} 岡村操様と片岡宏彰様^{かたおかひろあき}

県社協、県社会福祉法人経営者協議会、県社会福祉法人経営青年会との共催で初めて開催したコンテストの入賞作品10点の披露と、最優秀賞、優秀賞受賞者の表彰式を行いました。

フォトコンテスト開催を通じ、地域共生社会の実現に向けて、誰もが身近にある「ふくし」の啓発普及と、助け合い、支え合うことの大切さを確認しました。

基調講演

「最近の社会情勢と子どもをとりまく課題」

和歌山信愛大学 教授・和歌山子ども学 総合研究センター長
^{くわばら} 桑原 ^{よしと} 義登 氏

子どもには、安心できる居場所が必要です。そこに信頼できる大人の存在があることも大切です。子どもにしっかり関心を持ち、気がかりな子どもを見つけてしっかりアセスメントし、ニーズに応じた働きかけをし、環境を整えること。そのためには、支援機関が縦割りではなくできるだけ横につながって進めることが重要です。

自助(自己治癒力)をしっかり支えるための共助・公助。その仕組みをどう作っていくのか、皆で考えていきましょう。





和歌山県里親会 会長
とまつ しんろく
富松 伸六氏

いつでも、子どもたちの心のよりどころに

里親になって20年が経ちます。私の両親も里親をしており、両親の声掛けもあって里親を始めました。

子ども達と関わるなかで、親が子どもの手本にならないといけないと思います。里親は、子ども達の故郷になるわけですから、「何かあったら帰ろう、相談しよう」と思われるような存在になりたい。そして地域で気にかけてくれる、地域の関わりが必要だと思っています。

和歌山県里親会は県内4つの支部で活動しています。月1回交流・意見交換を行い、里親をサポートしています。里親になるには、特別な資格が必要なわけでもないので、ぜひ興味をもっていただきたいと思います。

“共労”の精神で、地域課題に取り組む

法人が所在する地区の子どものために何かできないかと始めたのが、愛徳子ども食堂です。少子・高齢化が進行し、独居老人が多い地域で、買い物に困っている人、通院に困っている人がいます。地域の民生委員や社協の方から、困っている人の声をキャッチして愛徳園と連合自治会が密に連携を取り、支援することもあります。

共労という考えを大切にしています。同じ目的であれば、みんなが少しずつできることを持ち寄ることで、目的に近づくのではないかと思います。これからも、子どもや、高齢者等の居場所づくりを広げていきたいと思っています。



社会福祉法人愛徳園
ビンセント療護園 主任
なんぶ ひかる
南部 光氏



Team MAK-e Spot
ほんまち子ども食堂 代表
みついわ まき
三岩 眞紀氏

垣根をなくして、同じ立場で話を聴く —誰もが立ち寄れる居場所で大切にしていること

私たちの活動は、13年前、和歌山市の中心市街地活性化事業による助成を受け、ブラクリ丁商店街に開設した「みんなの学校」が前身です。閉鎖後も子どもから高齢者まで集まれる居場所が必要と考え、古民家を改修しての子ども食堂等、地域の居場所づくりを継続してきました。

がむしゃらに、居場所づくりに取り組んできましたが、活動資金や経費のねん出が課題です。現在は、民間の助成を活用しています。また、活動メンバーは20代の若手が多く、仕事や学業との両立と併せ、多様化する子どもたちの課題

に対応するためのチカラを養うことも重要です。

コロナ禍で、子ども達の孤立が進んでいると感じます。行政の縦割りを排した支援をいただきながら、「地域みんなで子どもを育てる価値観」と「顔の見える関係性」を育てていきたいです。

桑原先生からのコメント

「関わる」と「連携する」ことがキーワード

子どもの居場所、安心できる場所は、まずは家庭です。子どもに関心をもち、関わるのが大切です。

また、近年の施策は、市町村を中心に一元的な相談体制を作る動きがあるので、親が対応しづらい課題があれば、関係機関で支える仕組みづくりを行っていただきたいと思います。

関係機関が連携するうえで大切なことは、それぞれの持ち味や専門性を把握・共有しておくことです。自分たちのできることは何か、できないことは誰と活動するのか、そこにはコーディネーターの役割が必要です。

行政が作る仕組みと子ども食堂のようなインフォーマルな活動との間で、制度の狭間にある課題を受け止め、各地域の状況に応じてまとめていく、コーディネーターの役割を社協に期待しています。



苦情対応力を高めるー令和4年度福祉サービズ苦情解決研修会を開催ー

令和4年12月5日(月)、21日(水)に、ビッグ愛(紀北会場)及びビッグユ一(紀南会場)で約90名の参加を得て研修会を開催しました。

受講者は、社会福祉施設・社会福祉事業所で事業者から選任された第三者委員(10.1%)、施設・事業所での苦情解決責任者(22.5%)、苦情受付担当者等(67.4%)、という状況でした。

研修内容は、苦情のメカニズムや苦情対応の心構え・基本姿勢を学んだうえで、二次クレームを起こさないためのケース別の対応について演習しました。

今回は、苦情対応力を高めてもらうことを目的に、株式会社ユメコム 代表取締役 橋本珠美氏を講師に招き「事例から学ぶ苦情対応研修〜徹底した事例研修で応用力を養う〜」と題して講義と演習で指導をいただきました。



演習については、まず、受講者自身で考えてもらい用紙に書き出し、次に2人1組になり、意見を交換し合いました。また、その他の受講者の意見も聞けるよう、自席にて、マイクを使い発表していただく形をとりました。
(※今年もコロナ禍により、グループワークの代わりに、感染防止に努めながら、座席の間隔をあけて、少人数の意見交換を実施しました。)

ケース別の事例検討で、ケースごとに様々な対応ポイントを教示いただき、例えば、「同じ苦情を防ぐための対策」、「事業者側の落ち度として考えられること」などのような言葉で対応するか

(実際に話す言葉を書き出す)など、具体的な内容をイメージできました。

受講者の研修に参加しての感想

- 多くの事例に取り組むことにより聞いただけの講義のみではできない学びがあるように感じる。
- 事例を自分の事業所の苦情と置きかえて考えることができ、実際にいった対応は、まちがっていないかつたことにほっとした。
- いろんな防止対策や改善策など聞くことができ、苦情に対する心構えができました。



- 対応の際の言葉を書き出すことにより、謝罪の際、伝えられていないことがわかった。
- みなさんの意見が聞いてよかった。事例も良かった。
- 緊張感があって良かった。

福祉サービスの利用にあたって生じる苦情について、事業者には自主的に解決に当たることが社会福祉法に定められており、苦情解決への対応が福祉サービスの質の向上と利用者本位の適切な支援につながり、利用者の満足度を高めます。

講師は、事業所の第三者委員もされており、各事業所における第三者委員設置の必要性をお話されました。



お問合せ先
**県福祉サービズ
 運営適正化委員会**
 TEL: 073-4351-5215

借入相談をきっかけにしたつながり(相談支援)を紹介します



vol.3 すさみ町社協

相談者から従業員に WinWinの関係性を構築



すさみ町社協
福祉活動専門員
たなか だいすけ
田中 大介さん



すさみ町の情報	
社協の相談体制	2人(兼務を含む)
人口(R4.11.30現在)	3,658人
特産品	カツオ、イノブタ

社協では、低所得世帯等に対して、必要な資金の貸付けと相談支援を行う生活福祉資金貸付事業等を実施しています。

その最前線で活躍するすさみ町社協の地本事務局長と田中専門員。今回はそのお二人から紹介された当事者の華さん(仮名)(30代 女性)にインタビューしました。

華さんとすさみ町社協の出会い

夏から秋への変わり目、幼い子どもを連れて相談に行かれた華さん。県外から転居してきて、困っている状況を話し、まず、すさみ町社協独自の貸付の利用に至りました。当時、すさみ町社協では調理員を募集しており、求職中の華さんは調理業務の経験があったことから、応募することになりました。

華さんへのインタビュー

●相談のきっかけは？

子どもと二人ですさみ町に転居してきましたが、生活に必要な資金が足りず相談をしました。

●すさみ町社協で働くことになった経緯は？

子どもが幼く、条件に合う勤務先が中々ありませんでした。そんなところ、相談後もずっと気にかけてくれていたすさみ町社協から調理員として働いてみないかと声をかけていただきました。

●現在のすさみ町社協との関係は？

相談先としては、借入後も親身に相談にのっていただけるので本当に助かっています。

勤務先としては、幼い子どものことを気にかけていただいています。勤務時間の調整や子どもにお菓子をプレゼントしてくれたり、本当に良くしていただいています。

チャンスがあるならつかみ取りたい!

●今後の抱負は？

大学で社会福祉士の取得を目指していましたが、家庭の事情などもあり断念してしまいました。相談援助業務に「あこがれ」があり、今後社会福祉士を取得する機会があればチャレンジしたい気持ちもあります。

地本事務局長と田中専門員から華さんへのメッセージ

調理員の不足を解消してくれた華さん。ありがとう。人柄もよくいつも前向き。社会福祉士の取得も応援したいと思っています。



華さんが調理したお弁当配食サービスの利用者さんに笑顔を届けています

第3回 福祉・介護・保育の就職フェアわかやま

- 日時 3月4日(土) 13:00~16:00(受付12:30~)
- 会場 和歌山ビッグ愛1階 大ホール(和歌山市手平2丁目1-2)
- 内容 ●個別相談会

求人事業所の採用担当者と求職者が直接面談します。また、オンライン出展の求人事業所と会場PCからZoomで面談もできます(事前予約可)。

●求職相談コーナー

(ハローワーク出張相談コーナー、福祉人材センター相談コーナー)
専門の相談員が、福祉の仕事に関する相談に応じます。

福祉の職場で働こう!!



2月10日(金)より特設サイト公開



特設サイトから参加事業所の求人情報、HP、PR動画等の事前情報をご確認ください。

福祉サービス 経営相談

対面でもオンラインでも相談できます



県内の福祉施設・事業所に向けて、適正かつ安定した経営や福祉サービスの質を向上させるためのご相談等に、専門のアドバイザー(社会保険労務士)が応じます。

相談をご希望の場合は、県福祉人材センター(下記)までご連絡ください。

相談例

- 就業規則に関すること
- 職員待遇や社会保険等に関すること
- 安全・衛生管理に関すること 等

相談無料

※相談は、対面又は電話・オンラインで承ります。
※対面の場合は、県福祉人材センター事務所で行います。

お問合せ先 県福祉人材センター「ハートワーク」(県社協内) TEL:073-435-5211

ひとづくり まちづくり ゆめづくり

人と人の「つながり」を大切に。 老若男女、みんな笑顔の清掃活動！



和歌山城で清掃活動をする様子

和歌山城で毎月第一日曜日、紀の川河川敷で三ヶ月に一度、清掃活動を行っている「NPO クリーン&コネクト和歌山」代表の幸前青空さん(21歳)にお話を伺いました。



最初は4人で始まった活動。一番右が代表の幸前さん。

活動のきっかけ

祖父に誘われ、自治会の清掃活動に参加したのがきっかけでした。私たちが暮らす地域が目に見えて綺麗になることで「掃除っていいな」と思うようになりました。

そのように思っていたところに、友人から清掃ボランティア活動をしたい、という声を聞き、ボランティア団体を探したところ、周囲で見つけることができませんでした。それなら若者の自分たちが、自由に活動できるようにと、2021年6月に「クリーン&コネクト和歌山」を立ちあげました。友達4人ではじめた活動ですが、今では40人、多い時は70人ほどが参加する活動へと広がり、定例清掃のほか、学校の校外学習、総合学習などを活用して学生と取り組んだり、企業と共に活動をしたりすることもあります。



学生と共に活動する様子

生まれる「人と人とのつながり」

クリーン&コネクトでの清掃活動の良いところは、今まで知らなかった方と「つながり」

ができることです。活動者は、児童から、学生、学校の先生、高齢者等、幅広い職種や年齢層となっています。

つながりを感じられるひとつのエピソードとして若い世代の方二人が、楽しく会話されているのを見て「二人で来てくださったのですか。」とお声かけすると、「今知り合ったばかりです。」という返事が返ってきたことがあります。また、活動中、様々な経験を持つ人生の先輩方からアドバイスをもらうこともあります。コロナ禍で、人とのつながりが希薄になる中、清掃活動が気軽に人と交流できる場となっています。

「何かしたい!」と思われている方はぜひ!

主な活動は和歌山城での清掃活動です。「継続」を大切にしており、一時間の時間を厳守し、楽しく活動することを徹底しています。事前連絡なしでも可能です。清掃道具は用意しています。

自分で何かをしようとする際は、人とのつながりが大切だと思われています。参加していただければ、いろいろな方とつながりが生まれます。「何かをしたい!」と思われている方がいれば、ぜひ一度一緒に清掃活動してみてください。

和歌山城ごみゼロ活動

主な活動日 毎月第一日曜 9:00~10:00
集合場所 わかやま歴史館前

公式ライン
QRコード



YouTube「NPOクリーン&コネクト和歌山」で検索!!

お問合せ先

NPOクリーン&コネクト和歌山
TEL:090-2915-4210
e-mail: cleanconnectwakayama@gmail.com



赤い羽根共同募金
ダイレクトメール募金へのご協力お願い

毎年10月1日から全国一斉に展開する赤い羽根共同募金運動。この度令和5年1月に県内企業・団体様宛にダイレクトメールで募金協力依頼をさせて頂いております。新型コロナウイルスの影響により、地域での募金活動も制限されることが多く難しくなっており募金実績も大変厳しい状況となっております。

コロナ禍の中、福祉課題は一層複雑、多様化し支援を必要とされる方々への福祉活動にも影響が生じております。皆様におかれましては、困難を極める時代に地域のつながりを絶やさぬよう、企業の社会貢献活動の一環として赤い羽根共同募金にご支援いただければ幸いです。

和歌山の福祉のために遺贈や相続寄付を考慮してみませんか

○遺贈とは

ご自身の財産の一部またはすべてを特定の個人や団体に贈与することを言います。遺言によるご意思を示すこととなります。

○相続寄付とは

遺産相続されたご遺族の方が、相続財産の一部またはすべてを寄付することをいいます。相続税申告期限までに寄付された場合税制上の優遇措置を受けられます。

詳しくは県共同募金会へお問合せください。

お問合せ先

**社会福祉法人
和歌山県共同募金会**
〒640-8319
和歌山市手平2丁目1-2
県民交流プラザ
和歌山ビッグ愛7階
TEL:073-435-5231
FAX:073-435-5232



赤い羽根 わかやま

メール
info@akaihane-wakayama.or.jp
HP
https://www.akaihane-wakayama.or.jp/

和歌山県社会福祉協議会 賛助会員のご紹介

県社協では、より多くの方々に社会福祉活動・地域福祉活動へのご支援とご理解をいただくため、「賛助会員制度」を設けています。いただいた会費は、本会の活動に活用させていただきます。本当にありがとうございました。

令和4年度に賛助会費を納入いただいた方々(34法人)

法人名	市町村名
株式会社季節風	和歌山市
株式会社野佐商店	和歌山市
中和印刷紙器株式会社	和歌山市
中央コンピューター株式会社	大阪市
株式会社紀州商合印刷	和歌山市
医療法人日進会	那智勝浦町
有限会社トータルケアサービス	和歌山市
株式会社ルミエール	和歌山市
セガワテント	和歌山市
医療法人辻秀輝整形外科	海南市
株式会社介護ステーションオアシス	和歌山市
株式会社大紀商工	海南市
医療法人三光会	和歌山市
センゴクベンダー株式会社	和歌山市
株式会社丸和	和歌山市
株式会社五大オーエー	田辺市
和歌山高齢者生活協同組合	和歌山市
株式会社なだいコーポレーション	紀の川市
新日本法規出版株式会社	大阪市
ノイエス株式会社	和歌山市
株式会社大黒ヘルスケアサービス	和歌山市
一般財団法人和歌山社会経済研究所	和歌山市
株式会社オークワ	和歌山市
株式会社稲葉	和歌山市
株式会社宮本スポーツ	和歌山市
株式会社貴志	和歌山市
医療法人彌栄会	岩出市
株式会社JTB 和歌山支店	和歌山市
株式会社フーズファイル	和歌山市
串本タクシー株式会社	串本町
株式会社日本旅行 Tis和歌山支店	和歌山市
東武トップツアーズ株式会社 和歌山支店	和歌山市
医療法人晃和会	海南市
株式会社アベックス西日本和歌山営業所	和歌山市

(令和5年1月3日現在・順不同、敬称略)

第2回

外国人介護人材 マッチング相談会

キメシロウ



はじめよう!
福祉の仕事

日時 / 2月24日(金) 9:30~16:20

開催方法 / Zoomミーティングを用いたオンライン相談会

※WEB (Zoom) での参加ができる環境が整っていること

内容 / 外国人介護人材を紹介するノウハウを持つ事業者等が、外国人介護人材の雇用を希望する介護事業所に対して、必要となる手続きや経費等について説明を行った後、質疑応答を行います。

※マッチング相談会はターン制(1ターン60分の計5ターン)で行います。

※ご希望のターンごとに、説明を聞きたい出展事業者をお選びいただけます。

参加申込み希望又は検討中の事業所は下記までお問合せください。(詳細の案内を送付いたします)



和歌山県社会福祉協議会

県福祉人材センター
「ハートワーク」(県社協内)
TEL:073-435-5211



高齢者の
生きがい
づくり

わかやま元気シニア 生きがいバンク

豊富な知識や経験、資格や技能を持った高齢者がたくさん登録されています。

地域でのお手伝い、イベントや学習会、学校行事などで活用してみませんか!



- 人材を探す
- 活動のご依頼
- バンクへの登録

WEBで検索!

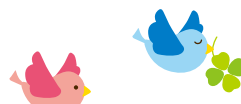
わかやま元気シニア生きがいバンク

検索

お問合せ(土・日・祝日を除く、9時~17時まで)

わかやま元気シニア生きがいバンク


☎ 073-435-5214



アルバイト先での体験がきっかけ
きっかけは、メンバーの一人がアルバイト先
のカフェで聴覚障がいがある方の接客をした
時のことでした。

今回は、ライクアスのみなさんに製品化に
至った経緯等についてお話を伺いました。

『ノートラブル』4点セット



◆本体(ホワイトボード) ◆指さしシート
◆予備シール ◆専用のペン

ホワイトボードとペンで筆談ができるだけでなく、指さしシートへ飲食店等でよく使う言葉を予め記入しておくことで、聴覚障がいがある方と指さしてコミュニケーションがとれる卓上カレンダー型が大きな特徴です(上図参照)。

令和3年7月、和歌山大学経済学部
3人グループ(ライクアス)のアイデアにより、聴覚障がいがある方が施設の窓口や飲食店のカウンターにおいて店員と円滑にコミュニケーションが取れる筆談4点セット『ノートラブル』が製品化されました。



～「ふくし」は「ふだんのくらしのしあわせ」～

このコーナーでは地域のふくしを支えるトレジャー宝物(人・物・笑顔)を紹介します。

聞こえに関係なく、誰もが想いを届けられる社会を創る。



和歌山大学経済学部
ライクアス

製品から想いを伝える
『ノートラブル』の名前には、「問題を無くす」という意味の他、「ノート」と「ラブ(愛)をかけ合わせ、「愛情をもって筆談する」という想いを込めています。

現在、本製品は全国販売に向けて動き出していますが、一人でも多くの方に使用してもらおうと、相手に想いを届けられる「コミュニケーション」が広がっていくことを願っています。

想いを製品にするまで
製品化までの道のりは、新しい経験の連続でした。使いやすさを追求するためのアンケート調査、費用を募るためのクラウドファンディング、さらにはメディアでの広報活動等々。その中で、本当に多くの方々の協力があって今日に至っています。

同時に、私たちも「聴覚障がい」について改めて考える機会となりました。製品のことを考える中で、相手への思いやりなど、新たな学びを得ました。

その場で上手く意思疎通ができず、相手に不快感をさせたのではとの後悔から、「指さし」で簡単に、それでお互いに気持ちの良いコミュニケーションが取れる「新しい形の筆談具」を製作しようというメンバー3人で決意しました。

精米の寄贈に感謝
～県社協会長感謝状贈呈式～

令和4年12月23日、和歌山ビッグ愛において、株式会社オークワ様に対し、県社協会長感謝状を贈呈しました。

この感謝状は、令和3年8月に締結した「協定※」を契機として、株式会社オークワ様から、令和4年12月までに延べ28回3567.7キロの精米を寄贈いただいたことに対し、感謝の意を表したものです。

寄贈いただいた商品は、各市町村社協の協力により、社会福祉施設・団体、こども食堂を運営するボランティア団体・NPO法人等に配分し、地域福祉の推進のため活用されています。



左から樹オークワ 大衆弘嗣社長、県社協 南木副会長兼常務理事

※商品寄贈による社会福祉貢献活動 寄贈品に関する協定(令和3年8月、株式会社オークワ様、県社協で締結)

ご寄附ありがとうございます。

福祉レクリエーション友の会 様(※)

福祉レクリエーション友の会の解散に伴い、地域福祉向上のためにと本会にご寄附いただきました。心から御礼申し上げます。



福祉レクリエーション友の会 松下代表(写真右)

【テレビ和歌山まごころ基金】株式会社テレビ和歌山 様

- 公益社団法人日本ビリヤード協会 日本アマチュアポケットビリヤード連盟 様
- NPO法人全世界空手道連盟 新極真会和歌山支部 様
- 中村 悟 様

泉域での社会福祉事業の進展に資するために、本会にご寄附いただきました。心から御礼申し上げます。



株式会社テレビ和歌山 大越代表取締役社長(写真右)

関西遊技機商業
協同組合 様

地域福祉の向上のために、車椅子5台をご寄附いただきました。心から御礼申し上げます。



関西遊技機商業協同組合 加藤副理事長(写真左)

